

解題

シンポジウム「20世紀東アジアの立憲制——辛亥革命と大正政変」は、近代日本研究フォーラム、広島近世近代史研究会、広島中国近代史研究会が主催し、広島県立文書館にて2010年3月5日（土）午後1時半から5時半まで、開催された。

本シンポジウムは有馬学氏（九州大学名誉教授）より布川弘氏（広島大学）に、辛亥革命100周年にあたる2011年に、近代日本研究フォーラム・広島近世近代史研究会・広島中国近代史研究会の合同による研究会を開催してはいかがかという提案を頂いたことから企画の検討が開始された。これら3つの研究会組織は、2005年より不定期に、近代日本・中国の関係史・比較史の視点による合同研究会を開催しており、2009年12月には、4回目の合同研究会として、広島近世近代史研究会・広島中国近代史研究会共催で、曾田三郎著『立憲国家中国への始動——明治憲政と近代中国』（思文閣、2009年）の書評会を開催したところであった（評者・中村元哉氏〔南山大学〕、コメンテーター・李曉東氏〔島根県立大学〕 各合同研究会の詳細については、本誌「曾田三郎先生の研究の歩み」に付した広島中国近代史研究会の例会の記録を参照のこと）。

有馬氏の提案を受けて、布川弘氏・石田雅春氏・曾田三郎氏・水羽信男氏と丸田孝志（いずれも広島大学）を中心として検討を行い、2011年の研究会は、20世紀東アジアの立憲制を中心テーマとし、20世紀の立憲制を巡る国際的な連環（立憲主義の伝達の道筋、日本・中国の相互の影響など）を問題の中心に据え、前回の書評会の成果も受け継ぎつつ、曾田三郎氏の著書も議論の対象として、日本近代史・中国近代史の報告者を立てたシンポジウム形式で開催することとした。日本史側は、布川氏の紹介により、小林啓治氏（京都府立大学）に報告を依頼し、中国史側は、金子肇氏（下関市立大学）・水羽信男氏による曾田氏著の書評を基礎とした報告を行い、これらに対して、有馬氏・曾田氏からコメントを頂くこととした。当日は、40名近い出席者を得て、活発な議論が行われた。以下に当日の報告・討論の記録を掲載する。

末尾に当日配布の趣意書と各報告のレジюмеを添付した。合わせて参照頂きたい。なお、録音記録の整理には、広島大学文学研究科東洋史研究室、同総合科学研究科地域研究講座の院生、王坤、川原絵梨奈、趙琳、永見和子、樊凡、美馬芳江、劉斯文の諸賢に助力を頂いた。このシンポジウムの企画・運営・報告・討論・編集に参加頂いた皆様に厚くお礼を申し上げたい。なお各報告者の所属は当時のものである。

（丸田孝志）